

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

こうべ「健康を楽しむまちづくり」構想 ～安心で健やかな地域社会をめざして～

2 地域再生計画の作成主体の名称

神戸市

3 地域再生計画の区域

神戸市の全域

4 地域再生計画の目標

(4-1) 背景

我が国は未曾有の少子・高齢社会に突入しつつあり、実効性のある少子化対策を推進するとともに、高齢者の健康を維持することが国家として重要な課題になっている。

このような中で、厚生労働省は「健康日本21」や「健康フロンティア戦略」を定めており、「健康フロンティア戦略」では平成26(2014)年までに健康寿命を2年程度伸ばす目標を立て、生活習慣病対策と介護予防を推進することとしている。

神戸市は、全国に先駆けて昭和52年に「神戸市民の福祉をまもる条例」を制定し、市民福祉の充実に努めてきた。本条例では、市民福祉向上のひとつとして健康の確保を位置付けて、保健医療体制の確立及び良好な環境の維持とともに、市民に対しては一人ひとりの健康に対する自覚とみずからの健康の保持及び増進並びに疾病の予防及び早期回復に努めることを求めている。

また、震災後の平成11年度から「神戸アスリートタウン」構想に取り組み、子どもから高齢者、障害者やトップアスリートまで、すべての人がそれぞれの価値観・技術レベルに応じてスポーツに親しみ、健康づくりができるまちをめざしている。

さらに、「健康日本21」の地方計画として平成14年2月に策定された「健康こうべ21」では、「あなたが主役！今日からはじめる健康づくり」をめざし、地域の医療機関や保健所を中心に地域で市民主体の健康づくりを推進している。

一方、平成11年3月に「神戸医療産業都市構想懇談会」から提案された「神戸医療産業都市構想」が国家的プロジェクトとして推進され、平成15年4月に開設した先端医療センターなどでは、がん治療や再生医療など最先端の医療の研究開発が進められている。

このような背景を受け、市民主体の健康づくりの指針である「健康こうべ21」を基礎として、「健康づくり」をまち全体で受けとめ、まちづくりの施策として展開する必要があると考えられる。

なお、平成17年6月に策定されたこれからの神戸づくりの指針である「神戸2010ビジョン」では、神戸の将来像である「豊かさ創造都市こうべ」は、「安全・安心」、「健康」を基本として、多様な交流・融合が新たな価値を創造するまちとしており、この実現に向けた重点テーマのひとつに「安心で健やかな地域社会の実現」を位置づけ、市民が健康づくりを楽しめる環境整備を行うことなどにより、次代を担う子どもや高齢者・障害者が社会参加する中で、安心してくらししていけるまちをめざすとしている。

(4 - 2) 課 題

(4 - 2 - 1) 市民の健康増進

高齢社会では、単に長生きするだけでなく、介護の必要な状態にならずに、いかに日々健康に長生きするかという「健康長寿」が重要であり、要介護の状態にならないような市民の自発的な健康づくりへの支援策が必要である。

また、神戸市においては、健診結果の 8 割が生活習慣病、またはその予備軍の状態にあり、その割合は年々増加の傾向を示し、生活習慣病の発症・重症化予防の総合的な推進が急務となっている。

「健康こうべ 21」では、市民が健康づくりに取り組むための行動指針としてライフステージ別の評価指標（平成 22 年度目標）を掲げているが、これを達成するためには、生活習慣を「食・動・眠」の観点から捉え、市民一人ひとりが生活スタイルに合わせて主体的に健康づくりに取り組めるよう、具体的なプログラムの提案や環境整備、科学的根拠に基づく多様な健康情報・サービスの提供など、健康づくりを支援する仕組みの構築が必要である。

(4 - 2 - 2) 地域産業の活性化・都市魅力の向上

平成 7 年 1 月に発生した阪神・淡路大震災は神戸市民の暮らしや経済に大きな打撃を与えたが、震災 11 年を過ぎてもなお、神戸経済の活性化は重要な課題となっている。

一方、食の安全・安心や健康などへの国民的関心の高まりにより、健康関連産業には大きな期待が寄せられており、安全性や健康効果が科学的に検証された商品やサービスへの消費ニーズは高い。

社会の安全・安心や市民の健康を支える地域産業における科学性検証などの取り組みへの支援、商品・サービスの高付加価値化による健康関連産業への参入促進、観光も視野に健康をテーマとした神戸らしいまちづくりなど、地域産業の活性化と都市魅力の向上への取り組みを進める必要がある。

(4 - 3) 健康を楽しむまちづくりの推進とその目標

神戸のまちは、海、山、温泉など自然環境に恵まれ、開港以来の歴史もあり、食を楽しむ文化やスポーツを楽しむ環境、さらには健康の維持増進を理念とした生活関連の地域産業の集積があり、市民が生活の中で健康づくりを楽しむ土壤がある。

また、「神戸医療産業都市構想」では、研究開発施設の整備と医療関連企業の集積を推進し、がん治療や再生医療など最先端の医療の研究開発が進められ、生活習慣病の早期発見、治療研究など、市民の健康を守る新たな取り組みも始まっている。

さらに、東部新都心には、日本の災害医療の拠点として兵庫県立災害医療センターが立地し、WHO（世界保健機関）神戸センターも「都市と健康」をテーマにした情報発信などの活動を行っている。

一方、近年、地域の知の拠点である大学や NPO 法人がまちづくりの新たな担い手として位置づけられている。神戸においても大学と地域との連携が進んでおり、区役所と大学が連携して、健康づくり、子育て支援、まちの美化活動等さまざまな地域貢献の取り組みが行われている。また、上記の「神戸アスリートタウン構想」の「民」の中心的な

組織である「NPO法人神戸アスリートタウンクラブ」は、トップアスリートとの交流事業や各種スポーツ教室の開催、地域商店街とアスリートのコラボレーションによる地域活性化など、スポーツや健康に関するイベントや情報発信等を行政や企業と協働しながら実施している。

こうした中、平成16年4月に「健康を楽しむまちづくり懇話会」が設置され、「市民の健康増進」、「地域産業の活性化」、「都市魅力の向上」を最終目標として、個人の自発的な健康づくりとともに、それを市民生活の豊かさやまちの魅力の向上に結びつけ、市民や来訪者が健康を実感し、楽しむことのできるまちづくりの仕組みである8つのプログラムを中心とした報告書が平成17年7月に提出された。

また、「神戸2010ビジョン」では、重点テーマである「安心して健やかな地域社会の実現」を具体化するためのアクションプランとして、「子どもが健やかに生まれ、育つまちプラン」、「高齢者・障害者の地域安心プラン」と共に「健康まちづくりプラン」が定められており、その重点事業として「市民の健康づくりの促進とその基盤づくり」、「スポーツクラブを軸としたスポーツの振興」、「医療・健康関連産業の活性化」に加えて「健康を楽しむまちづくりの推進」が位置づけられている。

こうべ「健康を楽しむまちづくり」構想は、神戸のまちの特性や「神戸医療産業都市構想」の研究基盤を生かし、「神戸2010ビジョン」で示されたアクションプランにおける諸事業と連携を図りながら、「健康を楽しむまちづくり懇話会」で提案された8つのプログラムの実現を図るための行動計画であり、その具体的な成果指標は、「健康まちづくりプラン」のチャレンジ指標に準拠し、以下の数値目標を設定している。

指標項目	現状値	目標値(平成22年)
基本健康診査の受診率	28.7%	40%
「日常的に運動やスポーツを行っている」人の割合	46.3%	50%以上
総合型地域スポーツクラブ会員数	36,889人	50,000人
「栄養や食生活に気をつけている」人の割合	85.8%	90%以上
禁煙又は分煙を実施している公共施設の割合	90.5%	100%
市内のスポーツ・健康維持増進サービスの市場規模	320億円	450億円

5 目標を達成するために行う事業

(5-1) 全体の概要

「健康を楽しむまちづくり懇話会」から提案された8つのプログラムの概要は以下のとおりであり、これらを有機的に関連付けながら、地元大学を中心に、兵庫県、神戸市、先端医療振興財団、NPO法人、民間事業者、地域団体等の産学官の連携により取り組みを進めていく。

(1) 健康づくり支援システム

[対応指標項目] すべての指標項目

市民の健康づくりを支援するための「健康を楽しむまちづくり」の情報インフラとして、Webサイトを活用した健康生活ガイドスの情報を提供し、双方向でモニタ

リングを行う健康生活サポートサービス等の機能を持った「健康づくり支援システム」を構築する。また、健康に効果があると言われる各種サービスの「科学性検証システム」を構築する。

(2) 喫煙被害防止プログラム

[対応指標項目] 基本健康診査の受診率

禁煙又は分煙を実施している公共施設の割合

がんや閉塞性肺疾患などの喫煙に伴う健康被害に関して、科学的な根拠にもとづく情報が正しく市民に伝わるように、大人だけでなく子どもや青少年も対象に、学校教育や保健所の健康教育を充実させるとともに、「健康づくり支援システム」による情報提供も実施していく。また、「神戸市受動喫煙防止対策ガイドライン」に沿って、受動喫煙防止や喫煙者のマナー向上に向けた地域ぐるみの取り組みを推進する。

(3) 地域の食育拠点づくり

[対応指標項目] 基本健康診査の受診率

「栄養や食生活に気をつけている」人の割合

地域福祉センターや学校の調理施設などを活用して、学校・地域・家庭が一体となった「食育」を展開し、地域住民がおいしくて健康に良い料理の仕方や正しい食べ方を相互に学び、楽しみながら食事をとるコミュニケーションの場づくりを進める。

また、地域の遊休農地などを活用し、市民や自治会から希望者を募り、無農薬の安心野菜を育て健康づくりに活かす「健康菜園」を整備する。

(4) 健康安心配食サービス

[対応指標項目] 基本健康診査の受診率

「栄養や食生活に気をつけている」人の割合

栄養のアンバランスがおこりやすくなると言われている高齢者や肥満、高脂血症、高血圧、糖尿病ハイリスク者など一人ひとりの状態に合った科学的な根拠に基づくヘルシーメニューを提案する。

また、神戸産をはじめとする鮮度ある食材や神戸の長い洋風食文化で培われた健康に良い食材なども活用し、生活習慣病予防を目指した食品を提案する。

(5) 健康づくりの小径

[対応指標項目] 基本健康診査の受診率

「日常的に運動やスポーツを行っている」人の割合

だれもが日常生活の中で気軽に楽しめる健康法として「歩くこと（ウォーキング）」に着目し、「健康こうべ21ウォーキングマップ」などをもとに、ヘルシーグルメや観光拠点など市内の魅力スポットをたどり、楽しみながら歩くことのできる「健康づくりの小径」を設定する。

また、これを活用し、ウォーキング前後に参加者への血圧や体脂肪率測定などの健康チェックを行うウォーキングイベント「こうべ健康ウォーク」を開催する。

(6) 歩く健康づくり

[対応指標項目] 基本健康診査の受診率

「日常的に運動やスポーツを行っている」人の割合

ケミカルシューズの製造技術力など神戸の資源を活かしながら、足の形状や歩き方、健康状態などの情報を蓄積した「足の健康データベース」を用いて、その人に合った靴の選択支援と歩き方のアドバイスを行い、さらにいつまでも健康に歩けるための健康体操等の指導を行う「歩く健康づくり」システムを構築する。

(7) 地域の運動拠点づくり

[対応指標項目] 基本健康診査の受診率

「日常的に運動やスポーツを行っている」人の割合

総合型地域スポーツクラブ会員数

市内のスポーツ・健康維持増進サービスの市場規模

エクササイズ、フィットネスなどを含めた各種の運動プログラムの科学的効果を検証し、総合型地域スポーツクラブや健康ライフプラザ、しあわせの村、神戸ウイングスタジアム、さらには神戸総合運動公園など既存のスポーツ施設等において普及させ、コミュニティの中で市民一人ひとりが健康づくりに自発的に取り組める環境を整備する。

(8) こうべ健康回廊

[対応指標項目] 基本健康診査の受診率

世界でも珍しい8種の泉質を持つ有馬温泉を中心に、くつろぎと癒しを通して個人の健康を取り戻し、健康を増進するしくみを構築するため、神戸の地域観光資源の利用が、温泉の効能をはじめ癒しやストレス解消など健康づくりにどのような効果をもたらすか科学的に検証し、これらを回遊しながらリフレッシュできる「こうべ健康回廊」を推進する。

(5 - 2) 法第4章の特別の措置を適用して行う事業

該当なし

(5 - 3) その他の事業

(5 - 3 - 1) 高齢者活力創造プロジェクト(介護予防の推進)

(「高齢者活力創造」地域再生プロジェクトの推進[厚生労働省][B0901])

足に適合した靴の選択や正しい歩行指導、運動・体操指導といった歩行支援プログラムの効果を科学的に検証し、科学的な検証に基づく予防サービスの提供を検討するとともに、この検証を踏まえて「歩行指導システム」の基盤を構築し、ICウォーキングシステムとの連携による「歩くこと」を中心にした予防サービスの提供につなげていく。

また、日々の食生活情報を収集し科学的に分析評価する「栄養指導システム」を開発し、「歩行指導システム」と併せて、食事・運動の両面から生活習慣の改善をサポートする「生活支援システム」として、ICT(Information&Communications Technology)を活用した先

駆的な予防サービスの構築を検討する。

また、これらの先駆的な予防サービスをモデル地域において実施する。

大学・先端医療振興財団・神戸市を中心に社会福祉法人、NPO 法人、民間事業者、地域団体等が連携して、これらのプロジェクトを実施する。

(1) 歩行支援プログラムの科学性検証

[対応プログラム] 歩く健康づくり

足に適合した靴の選択や正しい歩行指導、運動・体操指導といった歩行支援プログラムが、高齢者の歩行能力の改善にどのように貢献するか、要介護状態への進展予防と生活拡大に与える効果の科学的な検証を行う。

検証結果については外部の専門分野の学識経験者等で構成する評価委員会を設置し、専門的かつ客観的な見地から評価を得て、科学的な検証に基づく予防サービスの提供を検討する。

(2) 歩行指導システムの基盤構築（歩行支援プログラムのシステム化）

[対応プログラム] 歩く健康づくり

上記の実証事業を通じて得られた足形状及び歩行姿勢等のデータを評価・分析し、必要最低限の測定項目や歩行改善ポイントの抽出、歩行姿勢の分類と体系化を行い、正しい靴選択や歩行指導のマニュアル化を図る。

また、これらのデータを「足の健康データベース」として蓄積、活用し、一人ひとりの計測データに応じた靴・中敷の選択や歩行姿勢の改善の指導などを行う「歩行指導システム」の基盤を構築する。

(3) 生活支援システム（高齢者支援システム）の検討

[対応プログラム] 健康づくり支援システム
健康づくりの小径
歩く健康づくり

ICT を活用して、食事情報を収集し摂取カロリーや栄養バランスを分析評価する「栄養指導システム」を開発し、上記「歩行指導システム」や NPO 法人アスリートタウンクラブが開発する「IC ウォーキングシステム」と連携を図りながら、高齢者介護施設や健診機関等の医師が、対象者の健診情報と併せて栄養、運動の生活指導が可能な双方向の「生活支援システム」の構築を検討する。

なお、これらの情報システムの構築・運用にあたっては、個人情報保護法の本旨に則り、個人情報に関しては本人の同意を得た範囲での収集・活用を前提とする。

これらのシステム運用を通じて蓄積される生活習慣情報等をもとに、新たな生活習慣病予防策を調査・研究する仕組みづくりを検討する。

(4) 先駆的な予防サービスのモデル実施

[対応プログラム] 健康づくり支援システム
健康づくりの小径
歩く健康づくり

モデル地域を選定し、上記の歩行支援プログラムや IC ウォーキングシステム、双方向の生活支援システムなど、ICT を活用した先駆的な予防サービスの導入とその実践に必要な設備を整備する。

また、IC カードの読み取り器（カードリーダー）を設置するとともに、ウォーキングコースや歩行距離・消費カロリーなどを分かりやすく案内する表示板を設置し「歩く健康づくり」の環境を整備する。

(5 - 3 - 2) IC ウォーキングシステムを活用した地域活性化プロジェクト

(地域再生に資する NPO 等の活動支援[内閣府][C2001])

[対応プログラム] 健康づくり支援システム
健康づくりの小径
歩く健康づくり

高齢者の活力創造と生活習慣病予防のための継続的なウォーキング(運動習慣)の定着を図り、その効果を科学的に検証するため、NPO 法人神戸アスリートタウンクラブが開発する「IC ウォーキングシステム」を活用して、地域の歴史資源やヘルシーグルメ店、商店街、観光拠点などをたどり、楽しみながら歩くことのできる「こうべ健康ウォーク」を開催する。

また、地域商店街の活性化策としての適用を検証するため、ウォーキングデータによる抽選会の開催や、貯めたウォーキングポイントを商店街で使用してもらうサービスを付加するなど、商店街と連携した取り組みを検討する。

本システムでは、市民の健康意識向上・実践における有効性の検証を目的とするとともに、商店街での集客などを目的にした IC チップの活用策を探り、本事業をモデルに、より実効力の高いシステムを整備する。

「こうべ健康ウォーク」は、NPO 法人神戸アスリートタウンクラブを中心に神戸市・大学・地域団体・地域事業者等と連携して開催する。

(5 - 3 - 3) その他必要な事業

< 喫煙被害防止プログラム >

がんや閉塞性肺疾患などの喫煙に伴う健康被害に関して、科学的な根拠にもとづく情報が正しく市民に伝わるように、大人だけでなく子どもや青少年も対象に、学校教育や保健所の健康教育を充実させるとともに、「健康づくり支援システム」による情報提供も実施していく。また、「神戸市受動喫煙防止対策ガイドライン」に沿って、受動喫煙防止や喫煙者のマナー向上に向けた地域ぐるみの取り組みを推進する。

< 地域の食育拠点づくり >

地域福祉センターや学校の調理施設などを活用して、学校・地域・家庭が一体となった「食育」を展開し、地域住民がおいしくて健康に良い料理の仕方や正しい食べ方を相互に学び、楽しみながら食事をとるコミュニケーションの場づくりを進める。

また、地域の遊休農地などを活用し、市民や自治会から希望者を募り、無農薬の安心野菜を育て健康づくりに活かす「健康菜園」を整備する。

< 健康安心配食サービス >

栄養のアンバランスがおこりやすくなると言われている高齢者や肥満、高脂血症、高血圧、糖尿病ハイリスク者など一人ひとりの状態に合った科学的な根拠に基づくヘルシーメニューを提案する。

また、神戸産をはじめとする鮮度ある食材や神戸の長い洋風食文化で培われた健康に良い食材なども活用し、生活習慣病予防を目指した食品を提案する。

<地域の運動拠点づくり>

エクササイズ、フィットネスなどを含めた各種の運動プログラムの科学的効果を検証し、総合型地域スポーツクラブや健康ライフプラザ、しあわせの村、神戸ウイングスタジアム、さらには神戸総合運動公園など既存のスポーツ施設等において普及させ、コミュニティの中で市民一人ひとりが健康づくりに自発的に取り組める環境を整備する。

<こうべ健康回廊>

世界でも珍しい8種の泉質を持つ有馬温泉を中心に、くつろぎと癒しを通して個人の健康を取り戻し、健康を増進するしくみを構築するため、神戸の地域観光資源の利用が、温泉の効能をはじめ癒しやストレス解消など健康づくりにどのような効果をもたらすか科学的に検証し、これらを回遊しながらリフレッシュできる「こうべ健康回廊」を推進する。

<土砂運搬用トンネルの運動・健康施設等への転活用策の具体化調査>

すでに操業終了している土砂運搬ベルトコンベア用のトンネルについて、その機密性を活かして、低酸素トレーニングや高酸素リハビリなど運動・健康機能を有する施設として、またそれらの運動・健康効果を検証する場としての転活用の可能性に関して、大学、市民、NPO法人、企業などと連携しながら調査・研究する。

<健康関連産業集積の受け皿施設の提供>

「神戸医療産業都市構想」を推進し、大学の集積が進んでいるポートアイランドにおいて、キメックセンタービル（ポートアイランド内）の一部を改修し、「健康を楽しむまちづくり」事業と連携した地元の大学と健康関連企業との共同研究・開発の場を提供するとともに、地域での健康関連産業集積の受け皿施設を提供する。

兵庫県、神戸市が連携し、新たな事業創造につながるよう広域的な事業展開を図りながら、社会資本の有効活用により、地域産業の活性化をめざす。

6 計画期間

平成18年度から平成22年度まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

本計画の成果指標は「神戸2010ビジョン」の「健康まちづくりプラン」におけるチャレンジ指標に準拠しており、その達成状況に係る評価についても同様とする。

具体的には、成果指標についてPDCA（PLAN DO CHECK ACTION）サイクルによる進行管理を行い、目標の達成状況について毎年度その進捗度を中心に把握するとともに、その

結果については公表することにより市民と情報を共有する。

また、目標の達成度の主たる要因について検証と評価を行うとともに、必要に応じて、専門的見地からの助言等をいただくため、「健康を楽しむまちづくり懇話会」等の外部委員会の開催を検討する。

- 8 地域再生計画の実施に関し当該地方公共団体が必要と認める事業
該当なし。